

農作物技術情報 第7号の要約

平成23年 9月29日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<ul style="list-style-type: none">刈り遅れは品質低下の原因となるので、速やかに刈り取りをすませる。冠水・倒伏した圃場では、収穫前の圃場準備(排水、流入ゴミの除去)、慎重な収穫作業(適切な作業速度、刈り分け)を行う。冠水や倒伏により泥が付着した籾は刈り分け、仕分け集荷する。
畑作物	<p>大豆: 平年より早く黄化・落葉が進み、収穫は早いところで10月上旬から。適期に収穫できるよう準備をすすめる。施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにする。</p> <p>小麦: 小麦の播種適期となっている。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努める。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、目標株立数を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 台風の影響で草勢低下など全般に生育が抑制傾向。【露地きゅうり】収穫終盤を迎え、成り疲れや病害蔓延により出荷量は減少傾向。特に褐斑病、炭そ病の発生が多く、すでに枯れ上がった圃場も目立つ。【雨よけトマト】気温低下とともに裂果の発生が増加し出荷量は減少傾向。【ハウスピーマン】果実肥大が遅れている。【露地ピーマン】草勢の低下や腐敗果、赤果の発生が目立つ。【雨よけほうれんそう】概ね順調な生育。ハウレンソウケナガコナダニ、アブラムシ類、シロオビノメイガの発生が見られる。【露地葉菜類】キャベツ・レタスの収穫は終盤、生育はやや緩慢。ねぎの収穫は継続中、風雨の影響で収穫の遅れや倒伏が見られる。</p> <p>果菜類: 適切な温度管理や防除に努め収穫量を落とさないように心がける。収穫終了後の茎葉は圃場外に持ち出し処分し、病害虫の発生源を残さないこと。</p> <p>葉茎菜類: 【雨よけほうれんそう】適切な温度管理と病害虫防除に努める。寒締めを含め、もう1作のは種を実施。【露地葉菜類】適期作業に努め、作付け終了圃場の後片付けを適正に実施。</p>
花き	<p>りんどう: 翌年の病害虫発生を抑えるため、収穫後の病害虫防除と、残渣処理等収穫後の管理を徹底。</p> <p>小ぎく: 来年の栽培に向け親株の伏せ込みを実施。品種構成を考慮し必要な親株を確保するとともに時期が遅れないようにする。</p>
果樹	<p>りんご: ジョナゴールドは平年より果実品質が高く(硬度、糖度が高く)、熟度が遅れ気味(デンプン反応も高い)である。適期収穫、すぐりもぎを徹底する。</p>
畜産	<p>トウモロコシ: 収穫適期に到達しつつある。収穫作業を速やかに進めること。</p> <p>牧草: 刈り取り危険帯の時期に突入。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえる。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○秋の農作業安全月間実施中(9月15日～11月15日)「農作業 無事故でつなぐ 明るい未来」

次号は平成23年10月27日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 平成23年 9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

県内全域で刈り取り作業が進んでいます。刈り遅れは品質低下の原因となりますので、刈り取りがまだの方は早めに刈り取りをすませましょう。また、作業は計画的にすすめ、農作業安全に心掛けてください。

なお、大雨により稲が冠水・倒伏した圃場では、収穫前の圃場準備(排水、流入ゴミの除去等)、慎重な収穫作業(適切な作業速度、刈り分けによる品質確保等)を行ってください。

1 適期刈り取りの励行

刈り遅れるほど着色粒、胴割粒等の発生は多くなり、品質低下の原因となります。刈り取りがまだの方は早めに刈り取りを行いましょう。

2 浸・冠水圃場等の収穫対策

台風15号の影響により、稲が冠水したり濁流により倒伏した圃場が見られます。このようなところでは、以下を参考に対応してください。

(1) 刈り取り前の圃場点検

ア 水尻を止めたまま、或いはゴミにより排水口が詰まったままの圃場が無いかチェックし、刈り取り作業ができるように圃場準備を整えること。

イ 冠水した圃場には、流木、空き缶等のゴミが流入しているところが多く、事前にこれらのゴミを取り除いておくこと。

(2) 倒伏した圃場

ア 倒伏したままの稲の稈は切れやすく、コンバインが詰まりやすくなるので、作業速度はできるだけ遅くすること。

イ 穂発芽等により品質低下がみられる場合には、刈り分けをすること。

(3) 仕分け集荷

冠水や倒伏により泥が付着した籾は、異物混入を防止するためにも刈り分け、仕分け集荷し、十分な品質チェックを行うこと。

3 農作業安全

計画的に作業をすすめ、農作業安全に心掛けてください。

ア 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故には十分注意すること。

イ コンバインにワラ等が詰まった場合には、必ずエンジンを止めてからこれらを取り除くこと。

ウ 夕方の事故が多いので、休息をとりながら焦らず、慎重な作業を心がけること。

農作物技術情報第8号は10月27日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。

※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成23年 9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

大豆： 平年より早く黄化・落葉が進んでいますので、ほ場観察をこまめに行い、適期に収穫できるよう準備をすすめましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。

小麦： 小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。ほ場条件が整わず適期を逃したほ場では、播種量を増やし、目標株立数の確保に努めましょう。

I 大豆

1 生育の状況

生育の早いところから黄化、落葉が始まっており、早いところでは10月上旬に収穫適期になります。まだ青々したところから落葉したところまで、ほ場によって差があるので、ほ場をよく観察し、刈り遅れないように準備をすすめましょう。

2 収穫作業のまえに

(1) 浸・冠水ほ場等の点検・整備

台風15号の影響により、冠水したり倒伏したほ場が見られます。水尻を止めたまま、或いはゴミにより排水口が詰まったままのほ場が無いかチェックし、刈り取り作業ができるようにほ場準備を整えましょう。また、冠水したほ場には、流木、空き缶等のゴミが流入しているところが多く、事前にこれらのゴミを取り除いておきましょう。

(2) 除草

アメリカセンダングサ、シロザなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。

(3) コンバインの清掃

収穫作業の前には必ず清掃点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

(4) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈り取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめましょう。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期に収穫するためには、まず成熟期を知ることが必要となります。

成熟期は次の2つから判断します。

ア ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。

成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		
	早限	晩限	収穫(適)期間
コスズ、すずほのか	7～10 日後	30 日後	20～23 日
ユキホマレ	7～10 日後	20～25 日後	10～18 日
ナンブシロメ、スズカリ	10 日後	20～25 日後	10～15 日
リュウホウ	10 日後	20 日後	10 日
青丸くん	10 日後	16 日後	6 日間前後

※「青丸くん」は刈り遅れると子実の色抜けが生じることから、直ちに刈り取れる体制を整えておき、収穫適期間になったら、一気に刈り取るようにする。

(2) コンバイン収穫のポイント

- * 茎水分が 50%を超えると、こぎ胴で揉まれ、汚損粒の発生原因となります。
 - ・ 茎水分 50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるとき。
 - ・ 周囲の株と違い、青々として残っている株は抜き取る。
 - ・ 冠水や倒伏により莢に泥が付着し、品質低下が見られる場合は刈り分けを行う。
- * 子実水分は損傷粒の発生に大きく影響します。
 - ・ 子実水分が 20%以上と高い場合 → つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなる。
 - ・ 子実水分が低すぎる場合 → 裂傷や割れ豆などの損傷粒が増える。
- * 収穫の時間帯は、茎葉がよく乾いた頃（晴れた日の午前 10 時過ぎ～午後 5 時頃まで）です。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低減させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒やしわ粒は、子実肥大期での充実不足等、成熟期までに生理的に起きるものもありますが、乾燥時にも発生することが知られています。急速な乾燥を避け、土作り等で地力の維持に努めることも必要です。また、亀甲じわは、子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因でおきるので、刈り遅れは厳禁です。

II 小麦

1 小麦の播種適期を迎えています

例年、播種が遅れ生育量が足りないまま越冬する小麦ほ場が多く見受けられます。適期を逃さず作業を行い、生育量の確保に努めましょう。

表2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期 (月. 日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの考え方

- * 播種適期はできるだけ守るのが基本ですが、ほ場条件が良くない場合、無理に播種しても発芽不良になるだけですので、その場合は作業を見合わせましょう。
- * 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯の播種晩限から 1 週間遅れるごとに 10%播種量を増やし、目標株立数を確保できるよう努めましょう。
- * 県中南部で播種時期が 11 月に入るような場合は冬期播種に切り替え、12 月以降に播種を行います。

表3 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播種量 (kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
コユキコムギ	6~8	8~10	120~160	41
キタカミコムギ	6~8	8~10	115~150	42
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80% (全面全層播は64%) として求めた。

3 冬期播種

冬期播種のイメージをまとめたものを表4に示しました。

冬期播種を行った小麦は、雪解け後から出芽を開始し、出穂・開花は1週間程度遅れるのが特徴です。播種量、基肥とも秋まき小麦よりも多くなります。

冬期播種は基本的に県中南部の排水条件が良好なほ場を想定しています。雪解けが遅かったり、排水条件が整わないほ場はおすすめできません。

表4 冬期播種栽培の技術体系

月	10		11			12			1	2	3			4			5			6	7		
旬			上	中	下	上	中	下			上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下
作業等	①	②	②			④⑤					← 出芽期			← ⑥			← 出穂期				← ⑧ 成熟期		

作業の種類	作業内容	作業上の留意点
①排水対策	額縁明渠、心土破碎、圃場内排水溝	特に初年目転換田では、湿害防止のため排水対策は必ず実施する。砕土率向上のため排水の良好な圃場では、耕起・砕土は数回実施する。また、冬雑草抑草のため、耕起・砕土から播種までの間をあけすぎないこと。
②耕起 砕土	プラウ耕、ロータリー耕 ハロー耕	
③種子消毒	浸漬処理、塗沫処理	主に雪腐病を対象とする。
④施肥	播種同時側条施肥とし、施肥量は窒素成分で8~10kg/10aとする	施肥機構付きのドリルシーダーを使用する。リン酸・カリの施用は秋播慣行並みとする。追肥は基本的に不要。
⑤播種	播種期は12月(根雪前)とし、播種量は15kg/10a程度とする。	土壌表面が凍っている早朝に播種すると作業性がよい。播種深度は3~5cmを目標とする。
⑥除草剤散布	越冬直後に土壌処理剤、または雑草発生始期に広葉雑草対象の茎葉処理剤を散布する。	除草剤に関しては、登録上秋まき栽培に限定しているものがあるので注意する。また、越冬直後の雑草が生え揃う前に処理する土壌処理剤は、融雪後既に出芽している場合は使用しない。
⑦殺菌剤散布	秋播慣行と同様に実施する。	出穂・開花期は秋播慣行よりも1週間程度遅いので、ステージをよく確認のうえ(特に赤かび病)散布する。
⑧収穫・乾燥	秋播慣行に準ずる。	成熟期は秋播慣行より2~7日遅い。

4 排水対策を万全に

水稻の刈り取り後、小麦を作付けするほ場については地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう(→必ず排水路につなげて下さい)。

ほ場内明渠は、播種後に実施することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

農作物技術情報第8号は10月27日(木)発行の予定です。
 気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
 ※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
 ※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日~11月15日は秋の農作業安全月間

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成23年 9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底
- ◆雨よけトマト 保温の徹底と裂果の発生防止
- ◆ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除の徹底
適期は種と適切な温度管理による品質向上（寒締めほうれんそう）

1 生育概況

- (1) 台風 15 号による大雨や強風の影響で、草勢の低下など全般に生育は抑制されています。また、気温の低下に伴い露地栽培での出荷量が減少傾向にあります。
- (2) 露地きゅうりは、成り疲れや病害蔓延により出荷量は減少傾向です。特に、褐斑病や炭そ病の発生が多く、すでに枯れ上がった圃場も目立ってきています。
- (3) 雨よけトマトは、気温低下とともに裂果の発生が増加しており、出荷量は減少傾向です。全般に灰色かび病による被害がみられています。
- (4) ハウスピーマンは、気温低下に伴い果実肥大が遅れ、果実品質の低下もみられています。露地ピーマンでは、草勢の低下とともに赤果の発生が目立つほか、台風後の擦れ傷等から腐敗果の発生が増えています。タバコガ類による被害は、全般に減少傾向です。
- (5) 雨よけほうれんそうは、一部に曇天や雨水流入の影響がありますが、概ね順調な生育です。ハウレンソウケナガコナダニ、アブラムシ類、シロオビノメイガの発生が見られます。
- (6) ねぎは、収穫が継続して行われていますが、葉枯病、黒斑病などの病害や風雨による倒伏・折損が見られます。
- (7) 県北高冷地でのキャベツ・レタスは、収穫終盤となりました。連続した降雨や日照不足の影響で生育はやや緩慢になっています。キャベツではべと病の発生が例年より多く、レタスでは腐敗病、べと病、斑点病などが見られます。

2 技術対策

- (1) 露地きゅうり

今後は、気温も低下してくることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、草勢維持を図りましょう。

本年度、株が急に萎れる症状が見られた圃場では、片づける前に根を引き抜いて表面にホモプシス根腐病による黒変症状がないか確認しましょう。疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は最寄りの指導機関に連絡し、残さ検診を受けることをお勧めします。



写真1 ホモプシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(2) 雨よけトマト

極端に気温が低下した影響で、裂果の発生が増加しています。

今後、さらに発生しやすい環境が続くことから、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病がしやすくなるので、防除の徹底に努めてください。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉処理の方法は、9月末から10月初めまでの間に写真のように葉を全て摘んだ後、霜が降りる前につる下げし、不織布をべたがけします。低温や霜の影響が回避され、収穫可能な果実が増加するとともに、裂果の発生を減らすことができます。



写真2 全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を防ぎ収穫可能な果実が増加する。時期は9月下旬～10月初めまでとする

(3) ピーマン

雨よけ栽培では、夜間の保温により生育温度の確保に努めましょう。

全体的に赤果やひび割れ果の発生が増えています。特に下り枝に着果している果実は早めに除去し、草勢維持と早期収穫に努めて下さい。また、露地栽培を中心に斑点病の発生と消費地での腐敗クレームが増加傾向ですので、降雨前後にはカスミンボルドー等の散布により発生低減を図りましょう。

(4) 雨よけほうれんそう

年内収穫のためには種をもう1作検討しましょう。1か月、3か月予報では気温は高めと予想され、低温伸長性のよい品種を選択し、ハウスの開け閉めなどによる温度管理を適切に行い、年内に確実に収穫できるようにしましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して、病害が発生しにくい条件にするとともに、殺菌剤の予防散布も行ってください。

ハウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。近年は夏期にも被害が見られるほ場もあり、発生が周



写真3 シロオビノメイガによる食害 (矢印の部分に幼虫がいます)

年化しています。今年被害があった圃場では、早期に殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が心葉まで届くように丁寧に行いましょう。また、今年もシロオビノメイガの食害が広く見られます。幼虫は最初、心葉の隙間に入り込んでいるため見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしましょう。

作付け終了後は、来年の施肥管理の適正化のために、土壌診断を受けましょう。

(5) 露地葉茎根菜類

ア ネギ

最終土寄せから収穫までの日数が長くなりすぎると、品質の低下につながりますので、気象情報を参考にして計画的な作業に努めましょう。

病害の発生が多い傾向ですが、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。

(6) 冬春野菜

ア 寒締めほうれんそう

パイプハウスを利用する場合は種期の限界は、地域や気象経過、品種、保温方法によっても異なりますが、10月中旬頃が目安です。

保温のし過ぎで生育が進むと、十分な低温に遭遇する前に収穫サイズに達してしまう一方、温度が低すぎると収穫サイズに達しないまま冬を越してしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は12月～翌2月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて、適切な温度管理を行いましょう。詳しくは平成17年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

冬期間は、大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすいようにしましょう。

イ 伏せ込み促成アスパラガス

気温の低下とともに、地下部への養分転流が進む時期です。地上部が自然に黄化して枯れ上がるようにするため、台風による倒伏などで、茎葉が傷むことがないようにしましょう。

本年度も気温は高めに経過する見込みです。根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5℃以下の遭遇時間を参考にするなど、適切な時期の掘り上げを心がけましょう（平成18年度試験研究成果「アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の掘り取り時期」参照）。

農作物技術情報第8号は10月27日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 花き

発行日 平成23年 9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんどうの病害虫防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょ
- ◆ 小ぎくの健全な親株を確保しましょ

りんどう

1 生育概況

今年の彼岸需要期は各地域とも概ね順調に出荷されました。病害虫ではリンドウホソハマキが昨年ほどではありませんが継続して発生しています。その他に、地域によりハダニ類、オオタバコガ、黒斑病の被害が見られます。

2 病害虫防除

- (1) 葉枯病：秋期にも降雨により拡大する可能性があるため、株養成ほ場の防除を継続します。
- (2) 褐斑病：発生はそれほど多くありませんが、有効な薬剤を散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分します。
- (3) 花腐菌核病：高温の影響により子実体(きのこ)の形成がやや遅れぎみでしたが、9月半ばに西和賀町でIV型の発生が確認されています。花腐菌核病は花卉から感染するので、蕾から花卉が見えている品種の花蕾部への防除が必要です。各地域の暦にしたがって防除を進めてください。降雨が続く場合は散布間隔を短くし、防除は10月末まで継続します。発病が見られた場合は、菌核ができる前に被害茎を圃場外に持ち出して処分します。
- (4) リンドウホソハマキ：盛夏過ぎから茎への侵入による被害の発生が多く見られています。また、定植一年目のほ場でも被害が見られています。発生の状況を確認するとともに、発生の見られるほ場では、残茎葉の折り取りを確実にし、ほ場外で確実に処分します。
- (5) アブラムシ類・アザミウマ類：開花中～開花後に特に増加します。アザミウマ類やハダニ類の発生が多い地域がありますので注意が必要です。これらの害虫は、ウイルス病を媒介するおそれがあることから、収穫後の残花部分は確実に折り取り発生を抑えます。極晩生種でも発生が広がるため薬剤散布に努めます。



定植年のリンドウホソハマキ被害

3 収穫後の管理

- (1) 収穫後の圃場は病害虫防除がおろそかになりがちで、病害虫が多発しやすくなります。翌年の発生原因ともなるので、収穫後も防除を継続してください。
- (2) 収穫後は花の着いた茎の部分の折り取り病害虫防除と株養成を促します。定植年の株でも開花しますので、花はできるだけ摘み取ってください。
- (3) 茎葉の折り取り・刈払い：ウイルス病などの感染を防ぐため茎葉が完全に枯れてから刈り払います。晩生種や極晩生種は枯れる時期が遅くなりますが、無理な折り取りで株を傷めることがあるので、その場合は春に折り取るようにします。
- (4) 雑草防除：翌春の雑草対策のため、秋のうちから圃場内外の雑草対策を行うことが効果的です。

小ぎく

1 生育概況

9月咲品種の開花は地域により進み具合が異なりましたが、概ね彼岸需要期には出荷ピークを迎えました。病虫害では、オオタバコガによる被害が問題となっていますが、防除ごよみ等で対策を講じられた成果が見られ、昨年に比べると被害は抑えられています。しかしながら、フェロモントラップでの調査では現在増加傾向にありますので今後も要注意です。

2 病虫害防除

秋の涼温となると白さび病の感染が多くなります。特に、親株に伝搬しないように注意して下さい。また、オオタバコガを含め、他の害虫も残っているので、病虫害防除を継続します。

3 親株管理

(1) **栽培計画**：翌年の栽培に向け、各品種の開花期や特性を整理します。特に物日需要期の出荷遅れの反省をふまえて品種構成や作付面積を決定し、必要な親株の数量を確保します。

(2) **親株管理**：次年度用に選抜した親株には、収穫後、順次土寄せ、追肥を行って株養成します。茎が伸びてきたら適宜台刈りを行い、伸びすぎないように管理します。

親株のハウスへの伏せ込みは10月下旬～11月上旬頃までに行い、早めに活着させるよう管理します。伏せ込みは、品種や株の充実状態等により適する方法が異なり、また病虫害の持込程度も異なるので、適した方法で作業を進めてください。

- ・ 親株の伏せ込み

冬至芽の発生の少ない品種に適し、作業の手間も少なく済みますが、白さび病などの病害を持ち込む事が非常に多くなるので、薬剤散布に注意が必要となります。

- ・ かき芽利用

冬至芽の発生の遅い品種、少ない品種に有効ですが、病害を持ち込みやすく、株での伏せこみより手間がかかります。

- ・ 冬至芽利用

揃いが良くなり病気の持込が少なくなりますが、伏せこみ作業に労力がかかり、冬至芽の発生が少ない品種には利用できません。品種の特性を十分に理解して、それぞれに適した増殖方法を選択してください。

ストック

1 定植後の管理

(1) **かん水**：蕾が見える頃までは十分にかん水し、草丈を確保します。発蕾後のかん水量が多いと花穂部の徒長や茎の軟弱化を招くので、かん水を徐々に控えます。

(2) **温度管理**：できるだけ涼しい温度で管理することを心がけます。霜が降りる頃まではハウスを開放しておきます。強風等によりハウスを閉める場合は循環扇等を利用して空気を対流させ、徒長や菌核病の発生を防ぐよう努めてください。

(3) **追肥**：生育に応じて速効性の肥料を施しますが、草姿の悪化を防ぐため発蕾までに終えます。

2 コナガ防除

(1) 生育中の薬剤防除は、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の剤のローテーションでの使用を徹底します。

(2) またハウスの開口部を防虫ネット（目合いが1mm以下のもの）でふさぐことも効果的です。この場合通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、風通しの悪い場所では注意が必要です。

農作物技術情報第8号は10月27日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第7号

果樹

発行日 平成23年 9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

◆ りんご中生種の適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均でみると、概ね平年並となっていますが、9月に入り気温が高いうえに日照が少ないため、果実肥大はやや停滞しています。

表1 県内の定点観測ほ場における果実肥大(横径)状況(9月21日現在)

(単位:mm)

市町村	地区	ジョナゴールド					ふじ				
		本年(H23)	前年(H22)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H23)	前年(H22)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手県農業研究センター		81.5	89.8	90.0	91	91	81.2	81.7	84.3	99	96
岩手町	一方井	90.6	88.2	89.1	103	102	89.8	88.8	83.4	101	108
盛岡市	三ツ割	87.1	87.7	91.1	99	96	82.0	82.8	82.9	99	99
紫波町	長岡	82.9	90.1	91.1	92	91	82.2	84.4	85.6	97	96
花巻市	中根子	89.0	94.9	89.8	94	99	80.2	81.4	81.8	99	98
北上市	立花	83.7	89.4	92.5	94	90	83.7	85.2	86.0	98	97
奥州市	胆沢区	78.8	89.6	88.9	88	89	83.9	85.7	85.3	98	98
	江刺区	84.0	86.9	89.9	97	93	79.0	81.1	82.0	97	96
一関市	花泉町	87.6	88.3	88.8	99	99	83.2	80.0	81.6	104	102
	大東町	88.5	88.0	87.3	101	101	84.5	84.2	83.4	100	101
陸前高田市	米崎	85.6	86.3	88.0	99	97	82.9	77.9	82.6	106	100
宮古市	崎山	90.7	88.3	91.8	103	99	88.9	84.0	84.6	106	105
岩泉町	乙茂	93.3	93.6	85.9	100	109	81.6	81.1	84.2	101	97
洋野町	大野	94.7	88.0	88.4	108	107	80.7	83.1	81.5	97	99
軽米町	高家	88.0	87.4	90.1	101	98	81.0	80.1	80.0	101	101
二戸市	金田一	79.7	88.6	90.9	90	88	85.1	86.7	85.0	98	100
県平均(参考)		86.9	89.0	89.6	98	97	83.2	83.1	83.3	100	100

(2) 果実品質

「ジョナゴールド」の果実品質は、県平均で平年より果実品質が高く(硬度、糖度が高く)、熟度が遅れ気味(デンプン反応も高い)の状況です(図1~3)。早生品種は高温と日照不足の影響により、着色が進まず果肉先行となりました。10月の気温は高く推移するとの長期予報になっています。今後の気象によって、着色、熟度の進みが変化することがありますので、適切な管理、適期収穫を心がけましょう。

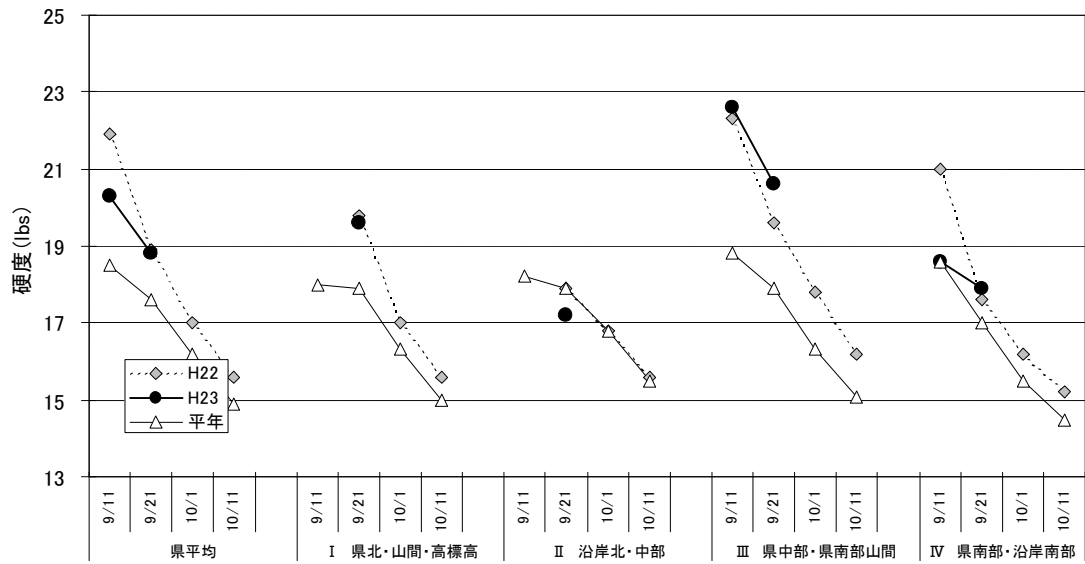


図1 ジョナの硬度の経時変化

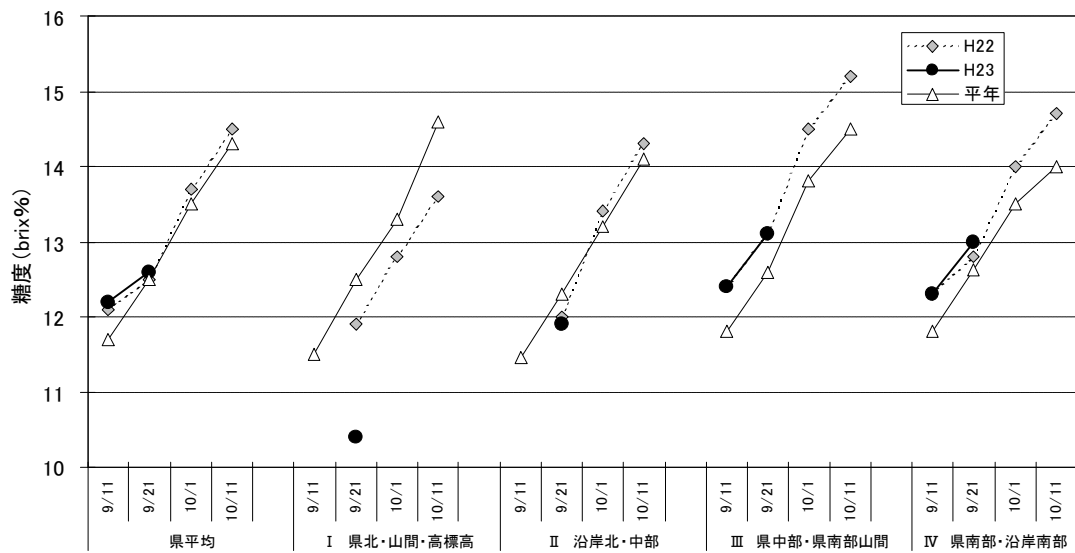


図2 ジョナの糖度の経時変化

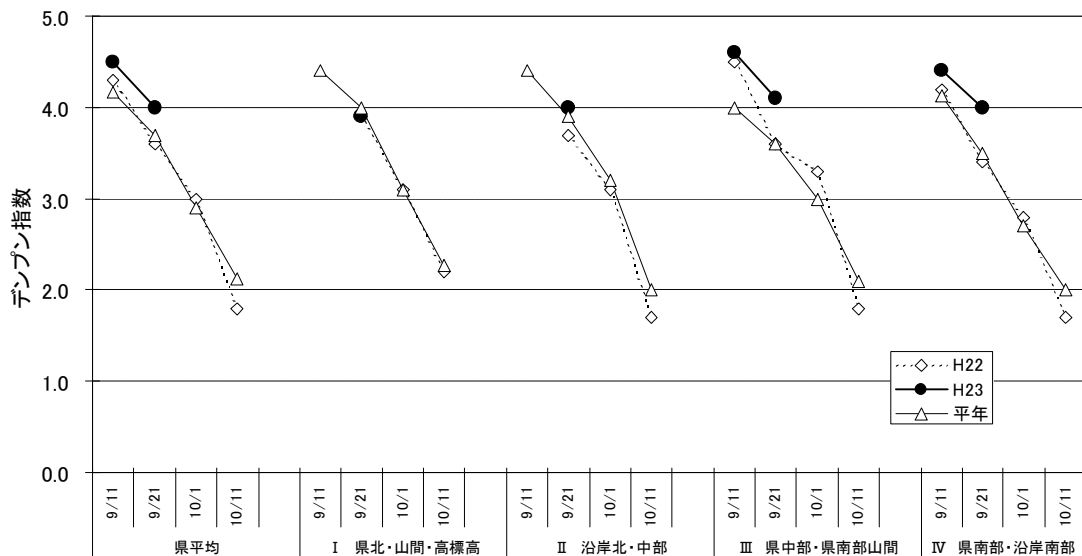


図3 ジョナのデンプン指数の経時変化

2 管理作業

(1) 中生種の管理

- ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。
- イ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。
- ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。
- エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上りが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう（表2）。

(2) 「ふじ」の着色管理

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください（表3）。

表2 中・晩生種の収穫開始期の目安

品種	満開後 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)
ジョナゴールド	145～155日	13以上	13以上
王林	160～170日	14以上	14以上
ふじ	165～180日	14以上	14以上

表3 「ふじ」の摘葉が果実品質に及ぼす影響(青森りんご試)

処理区分	果周の 増加量 (mm)	糖度 (%)	みつの 発生(%)	着色	翌年の開 花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新しょう葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無処理	7.40	14.9	86	4	66.6

- (摘要) 1 摘葉処理は10月3日～10日に行う。
2 果周増加は10月11日～11月11日までの分である。

(3) 「シナノゴールド」の適期収穫について

- ア 「シナノゴールド」の収穫適期の目安は表4のとおりです。収穫にあたっては、表面色カラーチャート及び満開起算日数と内部品質の収穫適期判定基準を参考にしながら総合的に判断してください。
- イ なお、表面色は「きおう」カラーチャートを用いて果面の比色をしますが、「シナノゴールド」は陽光面と陰光面で着色に差があるため、比色する部位を陰光面とし、測定時は直射日光下を避け、比較的明るい所で行います（図4）。
- ウ 果面にワックスが出ていない状態では未熟な食味ですが、ワックスを感じられるようになると食味が良好になります。「シナノゴールド」は果皮にワックスが若干感じられる時期も収穫の目安となります。特に、県北・高標高地などでは酸抜けが悪くなる傾向があるので、食味の確認を併せた収穫期の判断が重要です。

表4 シナノゴールドの収穫適期判断基準

表面色 カラーチャート指数	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	デンプン (指数)
指数6以上	170日以上	15程度	15.0以上	0.45前後	1以下

注)指標チャート:「きおう」カラーチャート(表面色)

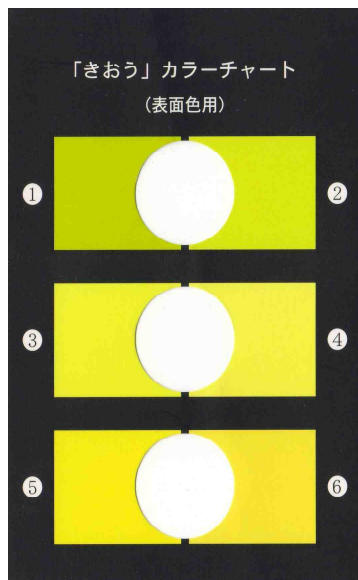


図4 「きおう」カラーチャート

※「シナノゴールド」は陰光面で比色し、指数6以上が収穫適期の目安となる。

3 気象災害対策

(1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策をとってください。

なお、台風通過後の事後対策については、2011年8月30日及び9月20日発行の技術情報号外「台風対策」に掲載していますので、参照してください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施しましょう。

農作物技術情報第8号は10月27日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成23年9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

トウモロコシ

◆ 収穫適期に到達しつつあります。収穫作業を速やかに進めましょう。

牧草

◆ 牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。

1 トウモロコシの収穫・調製

- (1) 熟期は黄熟期に到達しつつあります。子実熟度を確認して作業に入ります(収穫適期については、第6号を参照してください)。
なお、飼料用トウモロコシ等夏作飼料作物の利用自粛が要請されていますので、市町村単位に実施されている放射性物質検査を確認してから利用するようにしてください。
- (2) 熟期が完熟期に近い場合は、子実が硬く、詰込水分がやや低くなりますので、収穫時の切断長を10mm未満とし、子実の消化を確保すると共にサイロへの詰込密度を高めます
- (3) 過度の刈り遅れや、すす紋病、霜にあたったトウモロコシは、水分含量が低く、開封後、二次発酵が起こりやすくなります。乳酸菌製剤・プロピオン酸などの添加剤の使用を検討しましょう。
- (4) 刈り遅れた圃場では、カビが増殖している可能性があります。このサイレージを開封するときは、カビの有無をよく確認し、給与時にカビは取り除くとともに、ビタミン給与量の増加や、カビ毒吸着剤の使用を検討しましょう。

【倒伏や折損した場合】

- ・ できるだけ早期に収穫します。
- ・ 収穫にあたっては、ハーベスタの収穫方向をよく考え、作業機の運行速度を控えめにします。また、やや高刈りとするなど収穫時の土壌などの混入を避けましょう。
- ・ 倒伏や折損の場合は、切断長が粗くなりやすいことから詰込み密度を確保するために、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質低下を抑制しましょう。
- ・ 黄熟期前の収穫となる場合は、乳酸菌製剤の添加を検討します。

2 草地管理 — 牧草の刈り取り危険帯 —

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し日が短くなると、茎葉の成長がしだいに鈍化して、根が肥大し、越冬の準備に入ります。この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼします。

(1) 刈り取り危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ次のとおりとなりますので、参考にしてください。

(下表を見ると、日平均気温15℃と5℃の期間が40日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が15℃以下になってから40日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温 15℃)	終わり (牧草休眠) (日平均気温 5℃)
	平年値	平年値
奥中山	9月22日	11月10日
久慈	10月4日	11月23日
盛岡	10月3日	11月19日
江刺	10月6日	11月21日
一関	10月9日	11月26日

(アメダス調べ)

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に窒素成分を供給すると、牧草は養分の蓄積作業を止め、分けつや成長を始めてしまいます。この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けましょう。

農作物技術情報第8号は10月27日(木)発行の予定です。
 気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
 ※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
 ※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来